

山行報告

■六甲分割縦走シリーズ③

＜ゆっくりリズム山行＞

- 日 程：11月4日(月・振替休)
- 参加者：La 藤原(千) SLa 砂川(延) 阿部 生永 小田(敏) 兼澤 黒本 土井 福田(正)
Lb 澤田(律) SLb 矢根 天野 乙坂 河合 佐野 田羅間 徳本 橋本(万) 松井
- 行動記録：鈴蘭台駅 9:05 発～菊水山登山口(9:20 着) 9:30 発～菊水山(10:15 着) 10:25 発～天王吊橋(11:11 着) 11:16 発～鍋蓋山(11:55 着) 12:30 発～大龍寺(13:10 着) 13:15 発～市ヶ原(13:35 着) 13:40 発～布引の滝(14:30 着) 14:40 発～新神戸駅(14:50 着)

◆六甲縦走の感想・・・

松井

集合場所の鈴蘭台駅到着、集合場所は南口だと勘違いして、そのあたりを探すが、それらしき団体は見当たらない。探し回っていたら、来ないので探しに来てくれた会の方に会う。急いで中央口へ移動、みんなに会えてひと安心。そして、今日の登山が始まりました。駅から登山口へ移動し、登山道にそれぞれ場所を確保して、散らばり、兼澤さんの指導でストレッチ、体の隅々までゆっくりほぐしていきながら、さあ、歩くよ。体さん動いてねと声をかける。

今日は良い天気、かっぱの心配はいらない。いい登山になりそうな気がする。最初から、階段の道、階段の高さと幅が、ちょうどよいくらいなので、それほど苦にならない。菊水山の頂上を目指して歩き始める。

木漏れ日の中を、どんどん進んで行く、木々のおかげで暑くない。アスファルトの車道を横ぎり、また山の中の道へ、途中トイレ休憩をして、少し登ると展望が開けて、山頂に到着する。良い天気ですぐ遠くまで見渡せる。真下に神戸港、六甲アイランド、その向こうに大阪湾、和歌山が見える。右手の向こうには、我が高御位山がうっすらと見えている。記念撮影の後、次の鍋蓋山に向けて出発。ストックを準備してくださいと言われる。途中の道のそばが削られている、狭い道、ゆっくり、注意深くすすむ。危険な箇所もあったが全員無事に通り抜ける。

天王吊り橋を渡る。真下には車が六甲山を目指して走っていく。車の音がうるさく、俗世界に引き戻される。

2つの山は登りだが、そのあとは下るのみだからと聞き、もう1つの鍋蓋山を目指して歩く、ちょうど鍋蓋山で12時、昼食の時間になった。今日は朝が早かったので、お腹がすいていた。山の上の食事は、何を食べてもおいしい。次に来た他の団体さんも昼食にしている。



半分が過ぎ、残りの半分は下るのみ、トイレ休憩のため再度公園に立ち寄る。祝日でたくさんの人が来られ、にぎわっている。山の中は、ほとんど紅葉が見られなかったが、池のそばのモミジは2割くらい赤くなっている。秋だなあと感じた。

真言宗の天龍寺のそばを抜けて、どんどん歩いていくと布引貯水池に到着。ここで小休止、兼澤さんからリンゴをいただきました。とてもジュウシイでおいしかったです。今日は、池も滝も水量が多く、とても迫力がありました。そしてゴール地点の新神戸に到着、広場でストレッチをして解散となりました。予定していた時間通りの登山でした。

登山中に、ベテランの方からこうした方がいいよ、便利よという話を聞きました。実際に自分が登山してきた中での経験は貴重です。いろいろな話はとても参考になりました。藤原リーダー・みなさんお世話になりました。ありがとうございました。

おそらかんざん
■ **恐羅漢山（三段峡・石見神楽）**

●日 程：11月8日(金)～10日(日)

●参加者：L 佐々木 SL 藤本 笹木 島谷 村上 安田 矢根 山本(清)

●行動記録：

(8日) 宝殿駅 6:00 発—来夢とごうち(10:15 着)10:35—(昼食)—12:00 水梨駐車場 12:05
～三段滝(13:55)～駐車場 14:30—キャンプ場(15:05 着・泊)

(9日) 牛小屋高原登山口 8:10 発～夏焼峠(8:40 着)8:45 発～早手のキビレ 9:00～恐羅漢
山(9:45 着)10:05 発～旧羅漢山(10:35 着)10:50 発～獅子ヶ谷登山口(11:45)～二
軒小屋(12:15)—牛小屋高原(12:45)—有福温泉(15:00 着・泊)

(10日) 有福温泉 8:46 発—石見銀山世界遺産センター(9:41 着)10:00 発—大久保間歩ツ
アー(12:40)代官所前(14:30)—世界遺産センター(14:38 着)14:50 発—宝殿駅
(20:30 着)

◆ **広島から島根へ山登りちょっと、観光盛り沢山の旅**

笹木

広島出身の私は故郷方面への山行ということで喜び勇んで参加しました。盛沢山の内容でしたが絞って報告します。

(恐羅漢山 1346.4m)

恐羅漢山は西中国山地の最高峰で広島と島根の県境にある。前日牛小屋高原キャンプ場のキャビンに泊まり、翌朝すぐ近くの登山口からナラやブナやカエデなど落葉広葉樹の原生林を抜けて登っていった。色とりどりに美しい落葉を楽しみながら一時間半ほどで頂上に着いた。展望は北から南へ東側 180 度がまずまずで西方面は木が遮って見えない。日本海や石鎚山が見えるかと期待したが霞んで全く見えなかった。恐羅漢の語源は色々あるようだが私は次の説を信じたい。羅漢とは阿羅漢の略称で、煩惱をすべて断滅して悟りを得た最高の聖者を指し、その修行の段階を阿羅漢向、到達した境を阿羅漢果という。おそらかんさんという呼び名は、ひとたび人が迷って入ったら抜け出せない恐ろしい山という意味でつけられたと思われる。冬季は豪雪で恐ろしい山と化し、昭和 38 年の豪雪(積雪 5m)の際には集落の人々は全員、里に移られたという。本州最南端のツキノワグマの生息地でもある。今は大きな林道も通じ立派なロッジやキャンプ場で賑わって昔の面影はなく、冬季は良質なパウダースノーに覆われ、西日本最大級のスキー場になるらしい。

(双耳峰をなす旧羅漢山 1334m)

頂上からの展望はなく目の前に巨岩がそびえていた。これを使って登ってくださいと言わんばかりに、枯れ木が立てかけられ岩上からロープが一本垂れている。登れば展望があるかもしれない。島谷さんが一番に登り続いて私も挑戦。巨岩の中腹までは枯れ木を踏み台にして登った。そこから胸より高い岩上にどうやって登ろうか、岩の上にある短いロープを左手で持ち、右手で岩の持ち場を探したが、肝心の足をかけるところがつま先ほどの窪みしかなく登山靴が滑ってしまう。仕方なく鉄棒の要領で反動をつけて胸から這い上がり、お尻を下から押し上げてもらってやっと登れた。岩上は狭く二人が体を交わすのがやっと。眺望もそこそこに皆に見守られながら恐々降りてきて、三笠宮寛仁親王が登頂された記念碑があることに気づいた。三笠宮親王もあの岩に登られたのだろうか？左手の中指と右肘、私も島谷さんも同じところにかすり傷が出来ていた。

(有福温泉で石見神楽)

有福温泉は昭和レトロな街並みで歴史ある旅館が並んでいた。その一角に神楽殿があり、11月は毎土曜日そこで地元神楽団による神楽が行われていた。神楽の行われる部屋は16畳程の部屋の中ほどにテープが貼ってあり、そこから奥が舞台、手前が客席で芝居小屋の雰囲気だ。わずか8畳程のスペースでお囃子(大太鼓、小太鼓、笛、手拍子二人)と舞が披露される。30分以上前に行き座る場所を確保。ど真ん中かぶりつきに座ったメンバーもいた。初めに司会の方の巧みで楽しいMCと演目の案内に続いて舞が始まる。お祭りに奉納される神楽は宵の口から明け方まで一晩中行われ演目も10種類以上あるが、今夜は短縮3種目で2時間弱の予定だった。子供の頃、神社の境内で行われていた神楽を毛布にくるまって見ていた。前半は退屈で寝てしまうが終盤の大蛇が出てくると起こしてもらって見たものだった。今回は昔おぼろげに見ていた頃よりはるかに興味深かった。手が届くほどの距離で迫力満点に歌い踊る舞子は、面をとるとまだ幼さが残るような青年でさらに感動した。さて大蛇は3匹出てきた。山岐の大蛇は頭が八つあるので本来八匹出るらしいがここでは3匹でも部屋いっぱい。6畳そこそこの空間で剣を振りかざしクルクルと激しく舞う須佐之男命に大蛇が飛びかかり対峙する場面は圧巻だった。大蛇の動きも巧みでトグロを巻いたり、立ち上がって威嚇したり、激しく動き回る。かぶりつきにいた二人は大蛇が動くたびに尻尾に叩かれたり演出で呑み込まれたりしたがめっちゃくちゃ楽しんでた。舞もさることながらあの独特のお囃子笛太鼓がいい。耳というより腹の底、心の底に響いてくる感じ。若い後継者が次々にいて小学生や高校生の神楽チームもあり、神楽女子という言葉も生まれているとか。あっという間に2時間経ち22時20分、部屋に戻ってから神楽の話に大盛り上がりだった。蛇が嫌いで写真は撮らなかったという写真担当のMさんは蛇に呑まれた一人だが、後から「神楽の見方が変わった」としみじみ言われていました。

今回の山行は、山登りだけでなく色々な土地を巡り多くの楽しい体験をした。運転をして下さった佐々木リーダー、藤本さん、大変お世話になりました。良きメンバーと過ごした3日間はとても楽しかったです。皆様有難うございました。



◆～恐羅漢山山行計画を見て・お便り～

砂川 様

気が付けば空の雲も道端の彼岸花も秋になりました。
今月も高御位会報お届けいただきました。ありがとうございます。
会報の表紙、山の中腹になびく雲の写真素敵ですね。
会報を読ませていただく度にみなさまの声が聞こえるように思います。



今回、私の目をとめて羨望の思いをしているのは“山行案内”◎恐羅漢山（三段峡）（石見神楽）です。私の母の故郷です。三段峡は広島よりの溪谷、私の母の故郷は西寄りの匹見峡でした。夏でも涼しい田舎でわさび畑の中を歩き今では国道になった488号線沿いの匹見川で夏休みを過ごしました。

遠い昔になってしまいましたが、14歳で母を亡くした時の思い出は忘れることができません。それともう一つ私は石見神楽が子供のころから大好きでした。島根、広島あたりは神楽社中がたくさんあって村々の秋祭りには神楽の競演があり今でこそ、女性が笛や小太鼓の囃子方になりますが私の子供のころには“女”は神楽の衣装にも触れることを許されない神聖な演芸でした。

たまの帰省で神楽を観るとき女性の演者囃子方を私は此の歳になってもうらやましく見ております。太鼓のリズムで演目“天岩戸”“ヤマタノオロチ”などが解るくらいでした。10月の暦は神無月、島根は神在月でどんな小さな村の鎮守様でも古事記をもとにした神楽競演がありました。その田舎に帰ることが無くなって、私も久しくなります。

どうぞ、恐羅漢山山行メンバーの皆様楽しい山になりますようにお祈りしております。
今日は高砂の秋祭りです。

～令和元年10月・かねしま～

■雪彦山

＜女性委員会山行＞

- 日 程：11月10日(日)
- 参加者：L三木(悦) SL大谷 小田(敏) 乙坂 垣内 土井 待場 森下
- 行動記録：山之内駐車場7:45着～登山口8:05発～展望岩(8:35着)8:40発～出雲岩(9:12着)9:20発～大天井岳(10:00着)10:15発～雪彦山(10:55着)11:10発～鉢立山(11:35着・昼食・ポイズンリムーバー講習)12:10発～ジャンクションピーク(12:20着)～虹ヶ滝(13:30着)13:40発～大曲(13:50着)～登山口(14:15着)

◆雪彦山へもう一度

待場

播磨の名峰として知られる雪彦山、数年ぶりもう一度登りたいと思い参加した。この頃良く思うのは今までに登った山をもう一度…あの頃をもう一度じゃあないけれどチャレンジを忘れないで少しでも長く山を楽しみたいと思う気持ちがある。

秋晴れの中、予定よりも少し早くスタートした。登山口からいきなり急登で木の根が浮き出て歩きにくい、良い持ち手となる所も多くてストックが邪魔になるほど安心をして体に力を入れることができ30分ほど上ると、展望が開けた場所と言えば展望岩。

これから登る岩峰・雪彦山の全景を眺め、その眺望に満足し、紅葉も所々で日が当たってと



でも綺麗で秋を感じながら少し汗ばむ程で心地よく歩く。急な山道が続きロープや長い鎖場だったが思ったより傾斜が緩やかだった。登り切るとそこには「出雲岩」。天井のように覆いかぶさった巨大岩で、雪彦山と言えば印象に残る岩のひとつで覚えていた。足元も大きな岩が重なり歩きにくかったが岩場を楽しみながら慎重に歩いた。いつもながらここまでの人が多いように思った。この辺りの岩山を感じ眼下に広がる播磨の景色が素晴らしかった。ここからは、しばらく杉林の中を少し肌寒く感じながら雪彦山の三角点標石がある

山頂へ向かうが植林の中なので展望は無く寂しく感じた。

最高峰の鉾立山では氷ノ山・後山など今までに登った山を懐かしく眺めながらお弁当を食べ、「ポイズンリムーバー」の使い方の講習をする。

天気に恵まれた今日の山行、お陰でその醍醐味を味わえ、満足感に満たされた。

機会があれば是非同じコースでもう一度登りたいと思う山行だった。リーダー、皆さん楽しい山行有難うございました。

■六甲森林植物園

●日 程：11月16日(土)

●参加者：L森本 SL須増 天野 小田(敏) 佐野 春本 福田(正) 舛賀

●行動記録：谷上駅 9:00 発～森林植物園(10:30 着)11:40 発～学習の森(12:00 着)～再度公園(12:30 着)12:50 発～諏訪神社(14:25 着)14:35 発～相樂園(14:50 着)15:15 発～兵庫県公館(15:25 着)15:50 発～JR元町駅(16:05 着)

◆六甲山森林植物園山行(紅葉を楽しむ)に参加して

天野

11月16日(土)自身六甲山系5度目となる山行に参加してきました。

谷上駅集合ということで少し不安でしたが、JR宝殿駅から森本リーダー、舛賀さんと一緒に電車に乗ることが出来一安心。集合時間に余裕をもった時間の電車に乗ったのに途中でハプニングがあり、谷上駅に着いたのは丁度集合時刻でした。

リーダーから各任務者確認の上、登山口に移動。ストレッチ後山田道を登り森林植物園を目指しました。(早朝の気温は低かったですが登り出すころには程よい気温で気持ちの良い山歩きができました)。目標時間30分遅れで森林植物園に到着！65才以上は無料で入園でき紅葉を楽しむことが出来ました、真っ赤なドウザンツツジを見るには少し遅かったです。

(メタセコイア並木ではユジン&チュンサンの冬ソナのシーンを思い出し、同行者にユジンと声を掛けたくりましたが、チュンサンと返してくれなければ恥ずかしいので止めました)



植物園の西門から学習の森を通り再度公園に。公園では森本リーダー、舛賀さんによる詩吟が披露され両氏の多才ぶりに感動しました。再度公園では多くの登山者がBBQをしていたり、家族連れも大勢来て楽しんでいました。(車で来る事が出来るんだ!)

あとはZA・KO・BA目指して“もとい”諏訪神社目指して大師道を下り略目標時間通り下山。ストレッチも忘れず実施! 兵庫県公館の閉館までに相楽園の菊花展、国指定重要文化財の旧小寺家厩舎、旧ハッサム住宅、船屋形(江戸時代に姫路藩主が河川での遊覧用に使っていた川御座船の屋形部分)、日本庭園等を見て回りました(恥ずかしながら相楽園の存在は知りませんでした)。兵庫県公館では土曜日には特別に見学することが出来る貴賓室にも入りましたが椅子に座ること処か椅子に触ることさえ禁止されていました。伊能忠敬作成の大図(県域版レプリカ)が展示されていて自分達の住んでいる地名が江戸時代に有ったかで年甲斐もなく少し盛り上がりました。そうこうしている間に閉館の案内アナウンス、今日一番の目玉である大会議室のシャンデリアを急いで見に行きましたが室内は消灯状態。残念がっていたら職員の方がいらしてシャンデリアの電気を灯してくれました。大サービスに感謝!

このシャンデリアは県花「のじぎく」をデザインしたもので一見の価値がある優美なもので土曜日に元町に出かけたら是非見学してください。

(兵庫県公館の館内が土曜日にも見学できることは知りませんでした)

森本リーダー様:植物園の紅葉、相楽園の菊花展、文化財見学を山行に取り入れて頂きありがとうございました。(何があるかいつも楽しみにしています)

同行の先輩諸兄、参加者8名の内5名が今年の「初めての山歩き教室」の修了生で先輩泣かせであったかもしれませんが今後ともよろしくお願い致します。

■ ^{とこのお}床尾連山縦走と^{ほうたくやま}法沢山

●日 程: 11月17日(日)~18日(月)

●参加者: L砂川(延) SL島谷 阿部 笹木 田中(重) 徳本 福田(正) 松下 村上 矢根

●行動記録:

(17日) 姫路駅9:10 発一和田山 IC(10:15 着)一糸井の大かつら(11:15 着)11:25 発~東床ノ尾山(13:05 着)13:35 発~西床ノ尾山(14:25 着)14:35 発~羅漢谷出合(15:50 着)~糸井の大かつら(16:05 着)16:10 発~シルク温泉(17:00 着)

(18日) 古民家の宿 8:45 発~京川城跡(9:10 着)9:15 発~古民家の宿(9:35 着)一奥小野(10:05 着)一駐車場・登山口(10:15 着)10:30 発~尾根鞍部(11:20 着)11:25 発~法沢山(12:05 着)12:20 発~尾根鞍部(12:55 着)13:05 発~駐車場・登山口(13:30 着)13:45 発一奥小野(13:55 着)一出石蕎麦屋(14:45 着)15:20 発一姫路駅(17:30 着)

◆但馬の山 床ノ尾連山と法沢山を歩く

松下

11月17日、今日は天気も良く”山日和”、山の彩も楽しみだ。10名を乗せた車は雲海に浮ぶ和田山から朝来へ向けて走って行った。めざす山は朝来市北端に座す東床ノ尾山(838.9m)と西床ノ尾山(843m)で、これらに鉄鉦山(カナトコヤマ)を合わせて糸井三山と呼ばれ、かつては金山として栄え、今は出石糸井県立自然公園の中核となっている。和田山から糸井川沿いに進んでかつら木口手前で駐車、登山口へ向かった。かつら木口には国指定天然記念物“大かつら”の巨木がある。大かつらの木は少しだけ黄葉を残して早々に冬支度をした竹箒の様だった。



大かつらの木を後にして沢道を進み、尾根道との分岐から九十九折の結構な急登を足元に注意しながら登って行く。この辺りの山はスギやヒノキなどの植林が多いが、まばらに赤や黄に紅葉した木々が秋山の風情を醸し出している。一步一步踏みしめて歩く足元にも赤や黄の彩が賑やかだ。秋の澄んだ空気も気持ち良い。“山頂まであともう一登り・・・”と思いつつ、急登を3つほどよじ登って一等三角点のある山頂に到着した。

山頂からの眺めは良好、但馬や丹波の山並み、但馬空港、但馬ドームなど町の様子も広く見渡せた。急登を辛抱して登った苦勞が報われる時だ。“あれは段ヶ峰”とか、“氷ノ山はどこ？”とか、皆でパノラマを楽しんでから西床ノ尾山へ向かった。西床ノ尾山からの尾根ルートが厳しいとかで、リーダーは細引きロープを準備しての下山開始だった。この尾根は登りも大変そうだが、下りも急なので足の運びを慎重に一步一步降りた。ロープこそ出さずに無事に下ったが、後ろを振り返ると、尾根の斜度は65度前後であったように思う。尾根を下ると羅漢谷を糸井溪谷の登山口へ向けて何度か沢を渡りながら歩く。このルートはテープや標識がほとんど無かった。4時前に西床ノ尾山登山口に到着し、次なる目的地はシルク温泉“KAZABI”だが、夕食を済ませ、寄り道 Part1、安國寺のライトアップ・ドウダンツツジ紅葉観賞へ向かった。受付終了後だったが、SLが渉外力を発揮して拝観できた。見事な紅葉だった。

それから今夜のお宿“KAZABI”へ真っ暗な田舎道に向かう。“KAZABI”と云うのは、二百十日、自然と人がより穏やかに暮らしていく事を願う日で、但東町では風日（かざび）と呼ぶそうだ。古民家の一棟借りで私たちだけの小さな空間を楽しんだ。その夜は山の疲れも忘れて暖かい堀炬燵で果てしない“山談”に酔った。

11月18日、朝食は温かい田舎料理をたくさん食した。出発前の寄り道 Part2、宿の近くに京川城跡があるということで、正法寺の表参道から小高い山の上へ登って行った。疎林の間から山間の町の様子を眺める。その後、“法沢山”（643.5m）へ向けて出発する。狭い林道だったが巧みな運転で進む。登山口の標識の白い矢印を正しいと思い、ここから右手方向へ歩き始めた。一瞬、？？だったが、確認もせずについて行ったのが間違いの元だった・・・。林道を行けど進めど登山口に辿り着かず・・・私の背丈を超える枯草の藪漕ぎに閉口しながら歩いて行くと、尾根の鞍部でピンクのテープがヒラヒラ見えた。やっと尾根筋の途中の取り付けへ出たような・・・。そこから先の長い急登はトラロープの連続で、登りながら下山“の心配をするような70度位の急勾配だった。

法沢山の山頂で久美浜湾を眺めながら一息入れて、下山開始。リーダー指示でトラロープを2人ずつ掴んで下りて行った。落ち葉で尾根道が隠れていて滑り易い状態だったが全員無事に下山できた。

今日は低気圧の接近で風が強かったが、気温は高めだったのが幸いした。雨は、寄り道 Part3、出石蕎麦を食べての帰路に和田山辺りから降り出したので、まずまずの彩豊かな秋山山行を堪能できた。しかし、“地図とコンパス”については課題を感じた山行であった。



■ウチガネ（谷川駅北東の山）

- 日 程：11月20日(水)
- 参加者：La 佐々木 SLa 待場 天野 小田(敏) 村上 山本(清) 和田
Lb 上田 SLb 瀧原 内海 尾内 田羅間 春本
- 行動記録：谷川駅9：00 発～墓地・登山口(9：10 着)9：15 発～鉄塔(10：15 着)10：25 発～
オオ谷(11：20 着)11：30 発～高山(12：40 着)13：10 発～石船坂(14：25 着)14：
30 発～登山口(15：00)～谷川駅(15：40 着)16：54 発

◆山南町の山“ウチガネ”山行に参加して

天野

11月20日(水)“ウチガネ”山行に参加してきました。

山行申込書に藪漕の可能性あり、歩行距離、累積標高等詳細不明との案内にも関わらず無謀にも申し込みました。(近場の山行には参加するをモットーにしています)

“毎日高御位山”の私の師匠に“ウチガネ”山行の話をするとう藪漕があるなら作業服を着ていくと良い、寒くなってきたが雪が降るまでマダニ対策が必要(元狩りをしていた仲間談)、“ウチガネ”には必ず登ってくる(自分が登ってない山なので興味津々)ように！とか色々ご意見頂いて、服装は破けても良いようなズボンと上着姿で、JR加古川線谷川駅へ向かいました。装備品にマダニ対策用防虫スプレーも入れて持って行きました。(まだまだ山歩き勉強中ですので貴重な意見は、真面目に聞いてしまいます)

普段は登山口でストレッチし入山ですが、この山行はストレッチ後に登山口を探すことから始まりました。15分ほど掛けて登山道らしき踏跡を見つけて登り始めましたが、余り登っている人がいないようでリーダーが道を切り開いてメンバーがあとをついて行く状態が大半でした。鉄塔付近

は階段も整備されていましたが、ここまでどうして登ってくるのかな？といった声が聞こえました。(確かに)急登、激下りでは立木を右手、左手と掴みながらでないに登り、下りが出来ないほど落ち葉が積み重なり足元が非常に悪い状態でした。

急登で足が止まっている時に自然落石が発生しメンバーの頭のすぐ横を落ちていったのには肝を冷やしました。(富士山では落石をいち早く見つけるよう頂上側に背を向けない、登山道以外を歩けば落石を誘発するとか聞いた事を思い出しました)

昼12時に高山到着できず少し手前で昼食。高山を通り過ぎても踏跡が無く時間切れでリーダー達が下山ルートを探すのでその場を動かないよう指示を受けた。(行ったり来たりでの体力消耗を気遣ってくれてありがとうございました)

峠道へ下山出来そうな下りを滑り落ちないように注意し、やっと峠道に辿り着きほっと一息。

あとは峠道を下るだけの筈が倒木があったりで途中峠道が無くなったようになったが、迂回して峠道に戻ることが出来てからは(横並びで歩けた)色々話が弾み和気あいあいで谷川駅に帰り着きました。予定していた電車の発車時刻には間に合わず1時間半以上待ち。(ローカル線だね)駅の待合室では自販機のコーヒーを飲む人、アイスクリームを食べる人、ザックからチョコ



コレート等を取り出してメンバーに配ってくれる人と“ひととき”をみんな案外楽しんでいるようでした。（始発駅なので次の電車は早くホームに入ってきているのも気付かず）

怖かったけど楽しかった“ウチガネ”山行！ 皆さまには大変お世話になりました。

■志方東公園から志方城山へ登る

●日 程：11月23日(土)

●参加者：L 藤本 SL 安田 天野 生永 小田(敏) 乙坂 兼澤 黒本 佐野 須増 田中(重) 西川 春本 平石 福田(正) 森下 山本(清)

●行動記録：志方東公園 9:40 発～権現湖登山口(10:10 着)～分岐(10:35 着)10:40 発～権現山(10:53 着)11:00 発～別当峠(11:31 着)～志方城山(12:05 着)12:35 発～分岐(13:10 着)13:15 発～七つ池登山口(13:33 着)～志方東公園 13:45 着

◆秋の志方城山山行

西川

朝から晴天、今日は最高の山行日和。9時15分に志方東公園の駐車場に到着すると、すでに何台かの車が停まっており、集まって話している人の顔も晴れやか。ストレッチの後9時40分にスタートする。最初は舗装道路を東に向かう。鮮やかに色づいた木々が七ツ池の水面にきれいに映り込み柿の実のオレンジ、銀杏のイエローが秋をうまく演出してくれている。田んぼをショートカットしてサイクリングロードに入る。山陽自動車の土地成金の話題で現実に戻る。

権現湖の周回道路をしばらく歩くと、城山登山口へ。出発から30分で地図上の距離で三分の一以上来ているので楽勝の予感。登山口からは広くて歩きやすい登りで、100m毎に標識もあり分かりやすい。10時30分縦走路に出る。ここは権現山への分岐にもなっている。ここから急な下りが続き、落ち葉が滑って歩きづらい。下りが終わると今度は登り。

10時55分権現山山頂に着く。小さな板でかろうじて名前がわかるほどだ。見晴らしはないが、前に進むと権現湖と加古川の市街地が望める。短い休憩の後引き返し、11時15分、分岐点に着く。

登山口から1時間以上かかっているので低山でも侮れない。そこから城山の方向に15分のところが別当峠で、村間の往来に利用したのだろう。道端には安政の文字が刻まれた苔むした道標がポツンと佇んでいた。

12時過ぎ城山山頂に到着。そこは中道子山城跡で土塁や石垣、井戸も残っている。ネットで調べると赤松円心の四男赤松氏範によつて1384年～86年に築城され本丸、二の丸、三の丸で構成され東播磨で最大の広さを誇っている。（現在の城跡は1521年～27年に築城されたもので羽柴秀吉により滅ぼされた。）氏範は足利幕府との戦いに敗れ加東市の播州清水寺で一族郎党100名余りと自害したのだが、そのころに築城されたと知って、感慨深いものがある。

広場のベンチに座りカップヌードルとおにぎりを食した。北は笠形、善防、六甲の山々が南には加古川市街地を隔てて明石海峡大橋、淡路の山々が大きく横たわっている。



Sさんに頂いたレモンのはちみつ漬けの甘酸っぱさが口の中に広がった。30分の短い休憩の後、下山に向かった。もみじがオレンジ色から朱色へのグラデーションで秋のクライマックスを見事に演出している。

城山からは下りだけだが意外と長く13時35分七ツ池登山口に突然出て山行終了。

志方町岡からの登山口もあるとの事で、今回はそこから堂々とした山容を眺めながら登りたいものである。

藤本Lをはじめ同行の皆様大変お世話になり有難うございました。

■山の辺の道②

＜ゆっくりリズム山行＞

●日 程：11月24日(日)

●参加者：L藤原(千) SL三木(悦) 天野 内海 小田(敏) 河合 土井 藤田 矢根 吉村

●行動記録：巻向駅 10:10 発～景行天皇陵(10:50 着)11:00 発～トレイルセンター(11:30 着) 11:55 発～夜都伎神社(12:50 着)13:15 発～峠の茶屋(13:30 着)14:00 発～石上神宮(14:20 着)14:40 発～天理駅(15:30 着)

◆山の辺の道② 巻向駅～天理駅

河合

奈良桜井線の巻向駅を10時過ぎスタートする。心配していた寒さはなく気持ち良く歩ける。相撲発祥の地の看板を見て、敷石や道標に導かれ進んでいると、みかん狩りに行く可愛い子供たちの集団と出会い、話を交わしながら引率気分で一緒に歩く。鈴なりのみかん畑は山の辺の道を魅力的にしている。みかん農園を過ぎると立派な景行天皇陵、崇神天皇陵があり、どちらも前方後円墳で周囲に濠をめぐらせた堂々とした古墳です。途中で三輪山と二上山が見渡せる場所に上がり遠景を眺めたが、古代の人にはどのように映ったでしょう。天理市トレイルセンターに着き昼食にする。民家での買い物を楽しみ幾度となく足が止まる。ミカン、柿、千切り、ローリエ、草餅、梅干、ゆずみそ、菊芋、レモン、ゆず…あれこれのお土産で皆さんのザックが膨らむ。

ガイド担当の男性達は色々教えてくださるので有難い。印象に残った夜都伎(やとぎ)神社は春日神社の4神が祭られ、拝殿は珍しい茅葺屋根で立派だ。4年前にふき替えられているので新しく、存在感を身近に感じる。また鳥居の周りは綺麗な紅葉で去りがたい。大きな柿の葉っぱは見事に色づき、名物のお寿司に良さそうな柿畑が続く。その山道を抜けると峠の茶屋に着き、最後のひと時を満喫。ここの農園でみかんの詰め放題を楽しみ分けあう。家族愛で急になくなったザックを背に長い登り坂をいとわぬ山ガールです。



放し飼いの色々な鶏が迎える石上神宮に着く。うっそうとした常緑樹に囲まれ、立派な杉や銀杏の大木がそびえる。

歴代の天皇の崇敬を受け、貴重な国宝などが保管されている。古社寺、古墳、万葉歌碑など歴史が息づく古代の道は天理に向かい10.6kmを終える。

天理大学前の見事な黄金の銀杏並木を見て、街の独特な雰囲気を感じながら、ゆったりした商店街を楽しみ奈良漬、酒かす、昆布あめ、昆布佃煮等々またしてもお土産づくり、5.5 時間に及ぶ楽しい山の辺の道は終演になりました。

■大阪・奈良県境 生駒山

●日 程：11月25日(月)

●参加者：La 澤田(律) SLa 砂川(延) 天野 小田(敏) 小田(昌) 兼澤 笹木
Lb 瀧原 SLb 藤本 田羅間 徳本 橋本(健) 橋本(万) 山本(清)

●行動記録：枚岡駅 8:55 発～枚岡神社(9:00 着)9:10 発～枚岡展望台(9:40 着)9:50 発～神津嶽(10:00 着)10:05 発～なるかわ休憩所(10:35 着)10:45 発～ぼくらの広場(11:00 着)11:25 発～暗峠(11:40 着)～パノラマ展望台(12:10 着)12:15 発～生駒山山頂(12:30 着)12:45 発～宝山寺(14:00 着)14:10 発～生駒駅(14:40 着)

◆“秋の生駒山を歩く”に参加して

天野

11月25日(月)“秋の生駒山を歩く”に参加してきました。

前日までの天気予報によると朝まで雨が降っているとのことでしたが降っていない。

リーダーの神通力の御蔭か兎に角ラッキーな一日の始まりでした。

乗り物酔いするので阪神三宮始発の奈良行きの電車に乗って座って行けるよう早めに家を出て予定より1本早い奈良行きの電車に乗ることが出来ました。その電車は集合駅の枚岡駅に停車しないことは前日に調べていたが下車した鶴橋駅で乗り継ぐ電車が良く分からない。



数本見送って生駒行きの普通車に乗車！途中、駅に着くたびに後続電車が先行して行く。

枚岡駅には集合時間の25分前には着きリーダー達が乗ってくる電車より1本早く着くことが出来ずまずまず。リーダー達をホームで迎えて改札を出ようとしたらゲートが閉まり“乗り継ぎです”とのアナウンス、1day 切符の買い間違いで追加料金が発生してしまう大失敗。結局改札を出たのは最後でした。(お笑い) 枚岡神社から神津嶽～ぼくらの広場～大原山～暗峠～生駒山山頂のルートで登りました。最初から階段状の登山道が続きちょっと辛かったです。(階段は膝にくる)

神津嶽では神武天皇即位前3年、神武東征に際して奉斎したことに始まった枚岡神社創祀の地があり歴史ある神社であることを知りました。“ぼくらの広場”で昼食を取り、小雨が降って来たのでカッパの上着を着て次を目指しました。石畳の国道308号線を横切り暗峠に着いたころには雨もあがりカッパを脱いで生駒山頂上を目指している途中に、金剛生駒国定公園の眺望の良い所に着きましたが残念ながら雲で何も見えませんでした。

生駒山山頂には12時30頃到着！ 在阪放送局の送信塔が中腹にあった中継局を含むと12塔あるそうです。山頂の一等三角点が遊園地の子供用蒸気機関車の軌道の内側に有り線路を跨いで入り写真を撮りました。(軌道の内側には線路を踏まないよう入ればOKでした)

遊園地の乗り物に乗りたいと言ってる人もいましたが下山することに。しかし、下山ルートが通行止めに！ 迂回路から下山することとなり30分以上掛けて予定ルートに戻りましたが、途中のみじの落葉吹雪、ケーブルカーの軌道渡り（一応山道です）とか普通ではそんな機会にあえなかったと考えるとラッキーな迂回だったのかなど。

個人的にはアンラッキーな出来事も、下りが苦手なので足元ばかりに気を取られ山道を塞ぐ木（倒木だったか？）に額を強打、でも大丈夫子供の頃からの石頭にバンダナをまいてキャップをかぶっていたので一瞬目の前が真っ暗に（チョット大袈裟）なっただけで済みました。

14時には宝山寺（生駒聖天さん）に到着！ 宝山寺には鳥居があり「一の鳥居」には大しめ縄が取付いているのにはびっくり。

【お寺に鳥居？ 調べてみました。古代のヒンドゥー教とも言えるバラモン教の神（天部）を祀っているからです。宝山寺は数ある天部のうち「聖天（しょうてん）」を祀っています】お参りのあとは階段の参道を生駒駅へと下るのですが、何段あったか分からない、兎に角長い階段（ネット検索では700段以上とのこと）でした。（駅への道のりが上り階段でなくて良かったとの声が聞こえました）額を強打した人とか、足がつった人とか、いましたがみんな楽しくおしゃべりしながらゴール出来ました。下調べをしておけばもっと楽しかったのにと後悔しています。リーダーはじめ皆さま大変お世話になりました。

■2019年度 荒井中学校「トライやる野外活動」報告

報告：砂川(延)

今年の「トライやるウイーク」実施期間は第一週の月曜日は振替休日になっていたため、第2週の11日(月)がスタートで、参加生徒は10名、担当教師は長屋先生でした。

参加生徒：釘本 寿 三好 岩永 田中 寺田
原田 前田 由田 竹内

以上の10名で今年の参加生徒は全日程、欠席者はいませんでした。例年のことですが、生徒の氏名にフリガナが無いと読めない生徒が大半でした。野外活動の取り組み内容については、ほぼ例年通りでしたが、高御位山縦走についてはサポートの負担軽減のため現地まで高砂市じょうとんバスを利用した。



■ 11月11日(月) 座学(荒井中学校・図書室)

- サポート：砂川(延)、渡邊

◆お互いに自己紹介の後、地形図1/50000高砂を基に12日～15日までの日程ごとに計画を説明する。今年は加古川漕艇センターが改修中で食堂が使えないと通告されていたので、最終日は例年カレーを作っていたが今年はできないので弁当を持参することを忠告する。生徒達は先輩から聞いており残念がっていた。

■ 11月12日(火) 播州の山を歩く(1) 高御位山縦走

- サポート：天野、黒本、須増、砂川(延)、三木(悦)

- 行程：荒井中学校、午前8時30分集合し若宮町バス停から8時52分に乗車する。
JR 曾根駅～北池登山口～小高御位山～高御位山～鹿島神社～豆崎登山口～JR 曾根駅

◆今年から高御位山縦走は北池登山口から豆崎登山口までの縦走に切り替える。荒井中学校の東にある若宮町バス停から JR 曾根駅までじょうとんバスを利用する。JR 曾根駅から阿弥陀町内を歩き、北池登山口から縦走を開始する。高御位山頂上で昼食後、豆崎登山口を目指して歩くが、百間岩手前で休憩した際、JR 曾根駅からのバス時間まで余裕があるので、一旦、鹿島神社に下山して時間調整をする。帰りは15時15分のバスで帰る。

■ 11月13日(水) サイクリング 志方東公園往復

- サポート：天野、大谷、砂川(延)、須増、待場、三木(勉)、森本

- 行程：加古川河川敷公園(午前9時集合)～加古川右岸自転車道～加古川漕艇センター～みとろフルーツパーク～権現ダム～志方東公園(昼休み)～権現ダム～加古川右岸自転車道～高砂河川敷公園

◆河川公園を出発して、まず最初に訪れたのは15日に行うナックルフォアの下見を兼ねて漕艇センターに立ち寄り、ナックルフォアの現物を見てもらうことだった。今年は漕艇センターが改装中のため仮設の艇庫でセンター長の説明を聞き、オール漕ぎの練習もして当日に備えた。フルーツパークでは瀬戸内を眺めに丘に上がって公園内を散歩。権現ダムを經由して志方東公園に行き昼食で休憩したのち、権現ダムを經由して河川敷公園に帰る。

今年はサポートのメンバーも多く心強かったこともあり無事終了することができた。

■ 11月14日(木) 播州の山を歩く(2) 石の宝殿から日笠山

- サポート：天野、上田、内海、大谷、澤田(律)、須増、三木(悦)

- 行程：荒井中学校(午前9時集合)～観瀾処～石の宝殿～日笠山～馬坂峠～JR 曾根駅

◆荒井中学校を出発し法華山谷川の塩市側から竜山の頂上に上がり観瀾処に下山、生石神社を回って日笠山を縦走して JR 曾根駅からじょうとんバスを利用して、荒井中学校へ帰る。

■ 11月15日(金) 漕艇 加古川漕艇センター

- サポート：天野、大谷、黒本、澤田(律)、砂川(延)、須増、藤原(千)、待場、安田、和田

- 行程：高砂河川敷公園(生徒は午前9時集合)～加古川漕艇センター(自転車で往復)

サポートのメンバーは現地10時集合

◆当日のお天気が心配だったが、予想に反して風の弱く漕艇には良い条件だった。サポートのメンバーも多いので、ナックルフォアは3艇借用した。

トライやるの中学生には十分説明の機会を持てなかったのが心配だったが、乗ってみると、のみ込みは案外早く、ナックルフォアの漕ぎのコツも、みんなで力を合わせないと前に進まないことが分かったのではないかと。今年は漕艇センターの改修工事と重なり、食堂での調理が出来なかったが、食堂で弁当を食べることはできた。昼食後、反省会と生徒に日誌を記入してもらってから高砂河川敷公園へ帰った。

■高森ボランティア活動

報告：荘所代・砂川(延)

●日 程：11月16日(土)

●参加者：内海、佐々木、澤田(律)、砂川(延)、荘所、藤原(千)、和田 7人
バンバンTV・横山ゆうすけ、横山ポンスケ、福本、県民局・山本 4人

作業場所

※嶽山へ上がる平荘湖からの登山口から途中の登山道の合流点までの草刈り作業

※平荘湖東堤防から飯盛山へ上がる登山道、上部合流点までの草刈り作業

◆当日はバンバンTVから高森ボランティア活動の取材申し入れがあり、場所を嶽山への登山道の草刈り作業を行うことにした。10月にも高森ボランティアの取材申し入れがあったが、雨が予想されたため中止していた。

嶽山へ平荘湖の南堤防から取り付く登山道の草刈り作業を行った。夏の間草が伸びて歩き難い状況だったので、再度草刈り作業を行い整備した。

草刈り機が2台だったので、思ったより作業がはかどり早く終わってしまったので、TVの方からの要請もあり、飯盛山に取り付く太陽光発電に沿って上がる登山道の整備作業も行った。これらの状況をバンバンTVが加古川出身のお笑いタレント横山ゆうすけ、横山ポンスケを伴ってカメラ取材、12月から放映を行っていた。又、ユーチューブの「ひがタン」でも流していた。



「ひがタン！（ひがしはりま探検隊）」

東播磨県民局の取り組みや地域の魅力、情報を発信する東播磨県民局情報番組東播磨官内のケーブルテレビで放送、Web公開もされている。